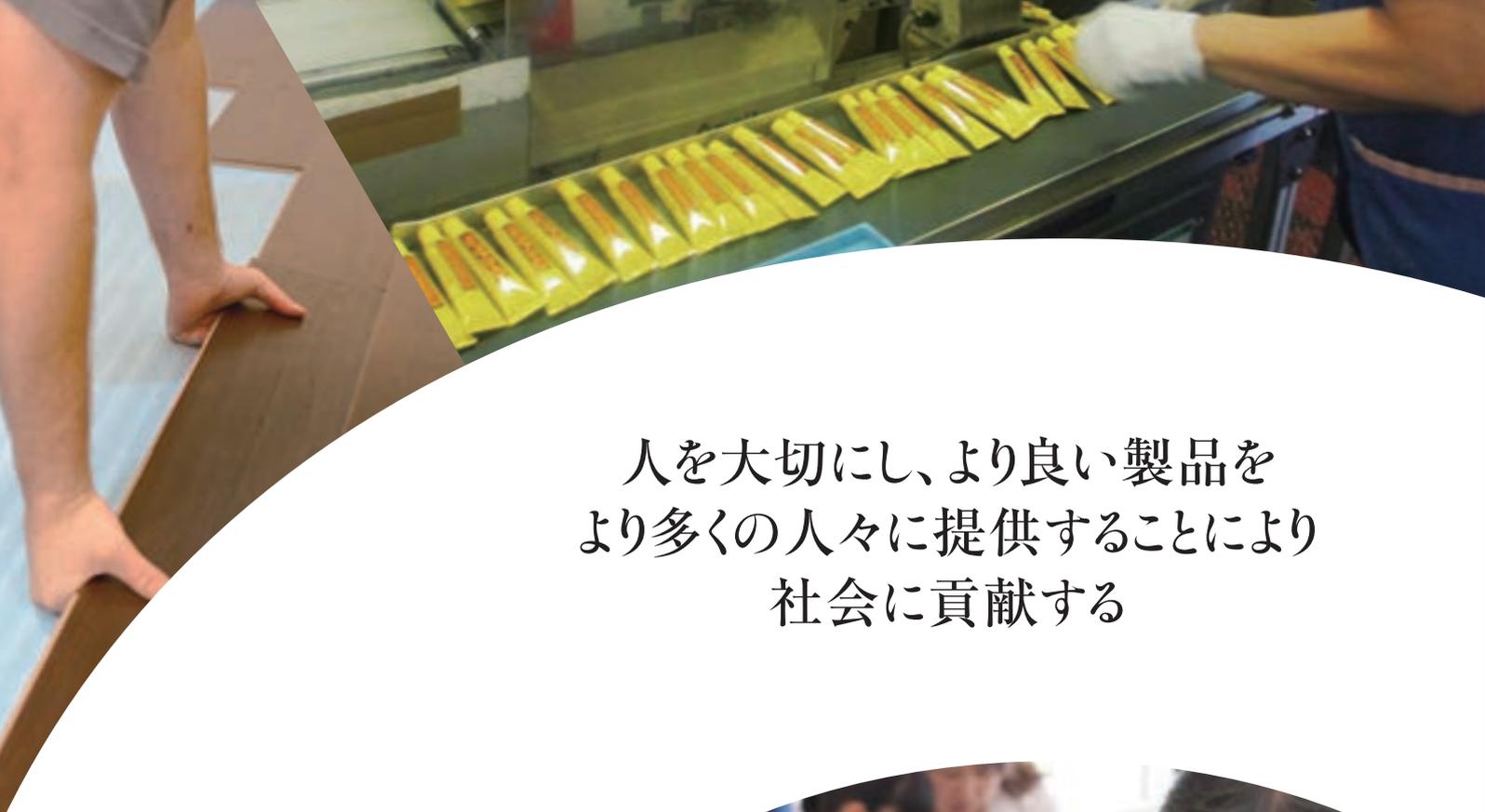




 **セメダイン**

# 2013年 社会・環境報告書

セメダイン株式会社



# 人を大切にし、より良い製品を より多くの人々に提供することにより 社会に貢献する

## index

---

- 01 目次
- 02 ごあいさつ
- 03 特集 私たちの暮らしに身近な  
セメダイン製品
- 05 CSRへの取り組み
- 07 お客様・取引先の皆様とともに
- 08 株主・投資家の皆様とともに
- 09 社員とともに
- 11 地域社会とともに
- 13 環境への取り組み
- 15 環境マネジメントの  
定量的評価
- 17 環境会計
- 18 事業活動と環境負荷
- 19 エネルギー使用量・  
廃棄物の管理
- 20 環境への配慮
- 21 第三者意見
- 22 会社概要



本報告書の担当責任部署 セメダイン(株)品質保証部

連絡先 〒141-8620 東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー

TEL: 03-6421-7413 FAX: 03-6421-7416

報告の対象となる組織：本報告の対象組織は、茨城事業所(茨城工場、開発センター)、三重事業所、本社事業所となります。その他の事業所に関連する場合、注記することとしています。

報告対象期間：本報告書の記載内容は、特に注記のない限り、2012年4月から2013年3月までを報告対象期間としています。

編集の基本方針：環境省「環境報告ガイドライン」(2007年度版)を参考とし、ガイドライン項目に準拠して記載しています。

## ごあいさつ

セメダイン株式会社は創業以来、接着剤、シーリング材を初めとする製品とともに、“つける”技術をご提供することで、多くのお客様のご期待にお応えしてまいりました。

昨年度を振り返りますと、お客様が、国内から海外へと顕著に広がった一年であったと強く感じられます。

昨年末より為替状況に大きな変化が見られ、一時的に生産現場を国内にとどめる企業がみられますが、中長期的には海外シフトの流れは続くものと考えられます。

当社は海外展開を加速させ、このような経済環境に対応しているところであります。その結果、お客様のご要望とも相まって海外での生産・販売の機会が格段に増加しつつあります。

とりわけ、巨大市場を抱える中国をはじめ、東南アジア各国に生産拠点を置くお客様からの問い合わせが活発となり、各国の化学物質、有害物質に対する規制に迅速にお応えしなければなりません。中でも大気汚染の原因であるPM2.5（微小粒子状物質）の問題を抱える中国では、化学物質に対する規制がより厳しくなっております。

このようなお客様の生産体制の変化や当社のグローバル展開のなかで、国内、海外の化学物質をめぐる潮流をいかに先取りし、自社の製品に反映させるかが、当社が国内外での企業活動を継続していく中で不可欠のものであると認識し、迅速、かつ積極的な取り組みを継続しています。

国内・当該各国の法規制の順守はもちろんのこと、それ以上に環境に配慮した製品を提供することが当社の責務であり、法令を上回る基準として「CCS (CEMEDINE CLEAN & SAFE) 基準」を設け、一般に販売される製品を中心にラインアップを増やし、グローバル化に対応しています。

当社は、「人を大切にし、より良い製品をより多くの皆様に提供することによって社会に貢献する」ことを企業理念としています。加速する国内から海外への展開や、単なる製品の販売だけでない問題解決提案型企業への脱皮、次世代に向けた新しい市場・用途の開拓など、地球環境の向上を常に意識しつつ、すべての『人』を大切にす理念を守り、社会発展に貢献する企業であり続けることを目指してまいります。

昨年度の当社の環境活動、社会貢献活動、コンプライアンス維持状況、内部統制の状況等、企業が社会に受け入れられるために必要な活動を「社会・環境報告書」としてまとめましたので、ご一読頂き、セメダイン株式会社をより身近に感じて頂ければ幸いです。

代表取締役社長  
荒井 進



top message





特集

## 私たちの暮らしに身近なセメダイン製品

私たちの暮らしの中のさまざまなシーンにセメダイン製品が使用されており、快適な生活や環境保全に貢献しています。

### 建築

建築物の目地およびガラスまわりの防水シール → 各種建築用シーリング材  
 住宅外装タイルの接着 → 変成シリコーン樹脂系接着剤  
 コンクリートのひび割れ補修 → エポキシ樹脂系接着剤  
 屋根瓦の接着 → 変成シリコーン樹脂系・シリコーン樹脂系接着剤  
 屋上防水シートの接着 → 合成ゴム系接着剤

### 太陽光発電パネル

ガラス端部封止材・架台の接着 → 特殊ポリマー系接着剤  
 電線部の導電性接着 → 特殊ポリマー系接着剤

### 土木

トンネル内壁タイルの接着 → エポキシ樹脂系接着剤  
 トンネルセグメント用ライニング材・コーキング材 → 変成シリコーン樹脂系シーリング材・コーキング材  
 車止めの接着 → 変成シリコーン樹脂系接着剤

### 航空機

### 鉄道

### バス

航空機・鉄道車輛の内装材・床シートの接着 → 合成ゴム系接着剤  
 構造材（パネル）の接着 → エポキシ樹脂系・変成シリコーン樹脂系接着剤・スーパーXシリーズ

### 自動車

### オートバイ

オートバイエンジン部品の耐熱接着 → エポキシ樹脂系接着剤  
 車載モーター・リレー等の部品の接着 → エポキシ樹脂系・アクリル樹脂系接着剤  
 自動車内装材の接着 → 合成ゴム系接着剤  
 トラック荷台床材の接着 → 変成シリコーン樹脂系接着剤  
 トラック荷室パネルの隙間充填 → 変成シリコーン樹脂系シーリング材





# CSRへの取り組み

私たちセメダインは、“つける”にかかわる技術・情報・サービス  
そして化学物質である接着剤を接着管理システムとしてお客様に提供することにより  
人と地球に優しい社会的価値の創造に貢献し続けたいと考えます。

## 企業理念

人を大切にし、より良い製品をより多くの人々に提供することにより社会に貢献します。事業を展開するにあたり、地球環境の向上を常に意識し、お客様、すべてのお取引先、株主の皆様、地域の皆様、社員など、事業を推進していくために関係するすべての人々を大切にし、社会貢献を果たすことを基本理念として活動してまいります。

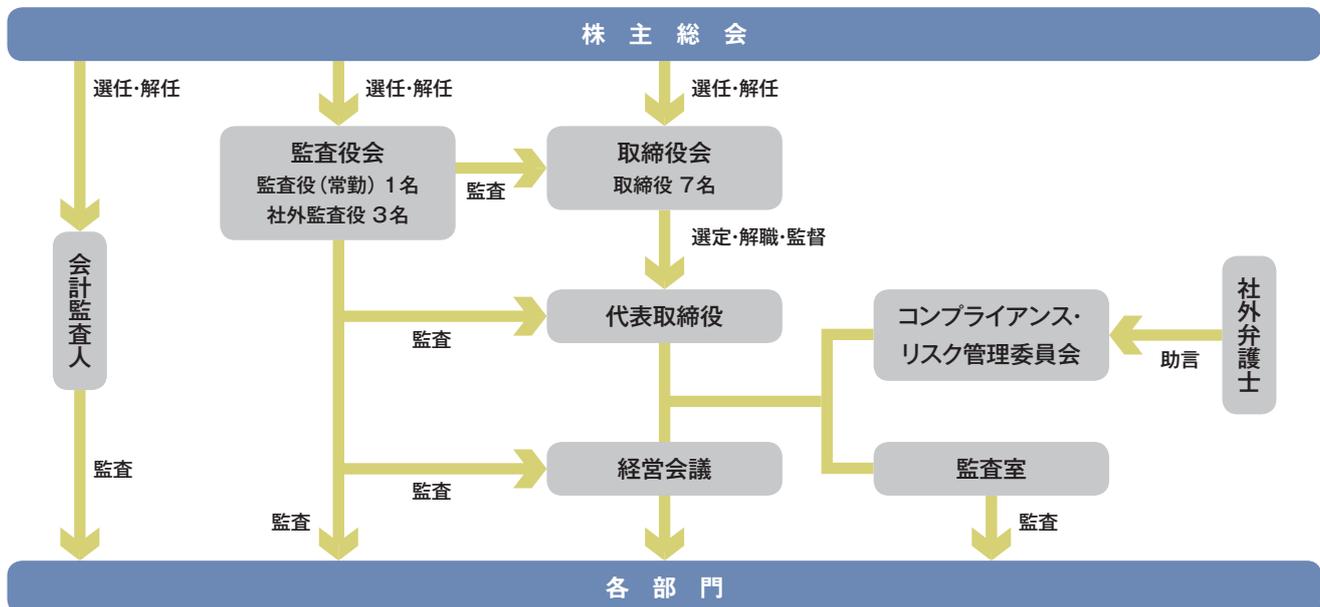
## コンプライアンス体制の確保

当社グループのコンプライアンス全体を統括し、推進する組織として社長が任命したチーフコンプライアンスオフィサーを委員長とする「コンプライアンス管理委員会」を設置し、グループ共通に適用される「コンプライアンス・リスク管理マニュアル」に基づきコンプライアンスを推進しております。また、グループ社員すべての倫理規定ともいうべき「セメダイン行動規範」については、役員、社員に常時携帯を義務づけ、研修等を通じて徹底を図っております。

## コーポレート・ガバナンス

経営の効率化、経営の透明性、公正性を求め、安定的に企業価値を高めていくために、経営上の組織や仕組みを整備し、必要な施策を実施し、株主利益に根差したコーポレート・ガバナンスの実現を目指します。

### ▶ コーポレート・ガバナンス



## 内部監査および監査役、監査法人による監査

内部監査については、監査室が随時監査を行い、社会的ルールや社内規程を順守した業務執行が行われるよう、内部統制機能を働かせております。

監査役監査については、全監査役が取締役会及び経営会議等重要な会議に出席し、必要に応じて意見を述べる他、重要文書の閲覧や職務執行状況の聴取、子会社の調査等を随時行うとともに、原則として毎月1回監査役会を開催し、取締役の職務執行を実効的に監視する体制をとっております。

監査法人による会計監査については、外部監査法人と監査契約を結び、期中を通じて会計監査を受けており、会計に関する問題について適切に処理できる体制となっております。

なお、監査室、監査役及び会計監査人は随時相互に情報交換を行い、相互の連携を図っております。

## リスクマネジメント

「コンプライアンス・リスク管理マニュアル」に、環境・災害・品質・情報セキュリティおよび輸出管理等に係るリスクについて、規則・ガイドラインの制定、研修の実施、マニュアルの作成・配付等を行うことを定めております。組織横断的リスク状況の監視及び全社的対応は「コンプライアンス・リスク管理委員会」が行い、速やかな情報の収集と的確な処理に努めております。新たに生じたリスクについては取締役会において速やかに対応責任者となる取締役を定めることとしております。また、複数の法律事務所と契約を結び、必要に応じて適切な助言と指導を受けることによりリスク管理の強化を実現しております。

## 行動規範

### 基本理念

セメダイングループの役員及び社員は、業務遂行にあたり、法令・社内規程等を遵守するとともに、公正と秩序、誠実と信頼をモットーとし良識ある社会人として行動する。

### 行動指針

- 1 法令等を遵守し、業務上の都合を優先させるようなことはしません。
- 2 就業規則その他の社内規程等を守り、互いに人格を尊重し、就業環境の向上に努めます。
- 3 社会と社員の安全を最優先します。
- 4 業務遂行に当たり、リスク要因の情報収集と未然防止に努めます。
- 5 取引先には誠実かつ公正に接し、信頼される取引関係を築きます。
- 6 業務上知りえた情報や第三者の知的財産権等を適切に取り扱い、インサイダー情報、個人情報及び社内機密情報を漏洩しません。
- 7 反社会的勢力には毅然として対応し、一切の関係を遮断します。
- 8 行動規範に反する発言や行動に気づいた場合は、是正に努めるとともに、速やかに上司またはコンプライアンス・リスク管理委員会に報告します。



# お客様・取引先の皆様とともに

お客様にご満足いただけるよう、製品・サービスに関する情報を提供するとともに、お客様への対応の充実に努めています。

## 展示会への出展

### ■ ネブコンジャパン

東京ビッグサイトで開催されたアジア最大級のエレクトロニクス機器展示会「ネブコンジャパン」に出展しました。

昨年秋から商品化された再剥離可能な粘着剤BBXや、UV硬化型弾性接着剤シリーズ、難接着材料用接着剤である「S X-PPK1000」の開発試作品を展示。工業・電子機器用の最先端接着技術を積極的に提供・提案し、多くの反響がありました。



### ■ 日本ホビーショー

東京ビッグサイトで開催された「日本ホビーショー」は、アジア最大級の手作りホビーフェアです。来場者の92%は女性という本展示会でセメダインは、デコ専用接着剤「パーフェクトデコ」を始め、新製品であるクラフト用多用途接着剤「クラフトマルチ」などの出展のほか、「パーフェクトデコ」を使用したデコ教室を開催いたしました。たくさんのお客様に接着剤を使ったホビーをお楽しみ頂きました。

### ■ JAPAN DIY HOMECENTER SHOW

国内外のDIY、ホームセンター関連商品が一堂に会する「JAPAN DIY HOMECENTER SHOW」が8月、幕張メッセで行われま

た。セメダインでは、お子様を対象にした工作教室を実施した他、新製品「スーパーXハイパーワイド」、「貼って剥がせるBBX」の実演を行い、たくさんのお客様が足を止められました。



## お客様に対する取り組み

接着技術相談センターでは、ホームセンターや個人のお客様を中心に、年間約30,000件の接着剤やシーリング材に関するお問合せ・ご要望・ご指摘にお応えしています。

お電話でのお問合せが中心ですが、よくあるご質問（例：商品間の違いがわからない。瞬間接着剤のキャップの開封の仕方がわからない。はがし方等）とその回答や製品説明・安全データシート等については、ホームページにてご覧頂けるようにしています。

今後イラストや動画も含め、よくあるご質問内容の一層の充実を図っていき、お客様にいつでもご利用頂けるよう努めてまいります。

お客様のご意見は、貴重なニーズ情報の宝庫であり、社内でも共有化させて頂き、製品の改良や見直し、新商品の企画・開発に繋げていきます。

これからも、お客様のお声を頂きながら、選定しやすく、使いやすく、安全な製品の開発に努めてまいります。



当社ホームページ

## voice 担当者の声



営業統括部  
接着技術相談センター  
松島 宏光

接着技術相談センターには、お客様より多岐多様なお問合せがあります。お問合せに対しては、簡単でわかりやすい説明、その場での迅速な解決を心掛けております。お問合せの中には、1人で解決できない場合もあり、場合によっては他のスペシャリストとの連携を図り、チームとして高い課題解決力を発揮できる体制を整えております。商品選定の際は、接着剤は化学物質の為、より環境にやさしく、安全で安心してご使用頂ける製品のご案内に努めています。また、お客様からよくあるご質問に対しては、ホームページ上で、Q&Aとしてご覧頂けるよう、今後さらに充実させていくよう努めてまいります。

# 株主・投資家の皆様とともに

株主・投資家の皆様に適時・適切な情報開示を行うとともに、IR活動に努めてまいります。

## IR活動

### ■ 事業報告書

株主の皆様には、「事業報告書」、「中間事業報告書」をお送りするとともに、多くの方にご覧いただけるよう、ホームページ(www.cemedine.co.jp)



「第79期事業報告書」

cemedine.co.jp)にも掲載しております。内容についても、「トップインタビュー」、製品の歴史や製品紹介等、当社についてご理解いただけるよう工夫を重ねています。

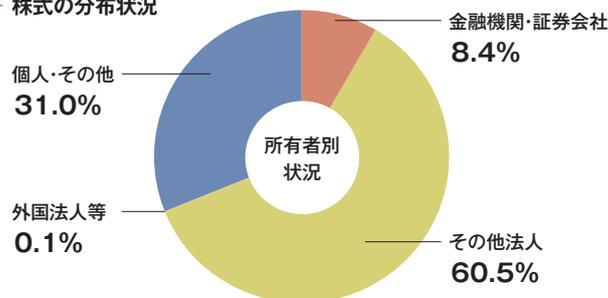
### ■ ホームページ

ホームページにIR情報のページを設け、プレスリリースを含めタイムリーな情報提供に努めています。

### ■ 個別取材

証券アナリストや機関投資家との個別取材に応じ、直接意見交換を行うことにより、当社現状への理解を促進していただけるよう対話を行っています。

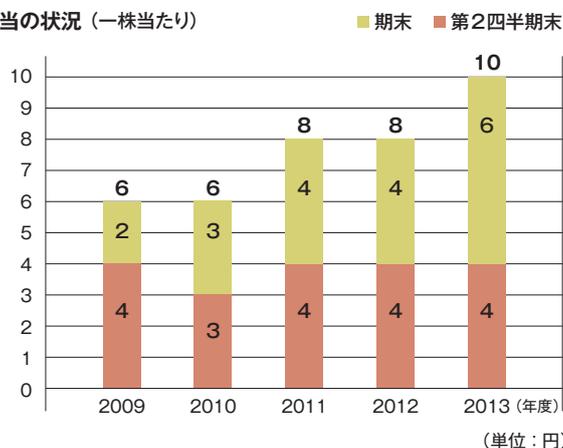
### ▶ 株式の分布状況



## 利益配分に関する基本的方針

当社は、株主のみなさまに対する利益還元を経営の重要課題と認識しており、事業の成長、資本効率の改善等による中長期的な株式価値の向上とともに、安定した配当を継続的に実施していきたいと考えております。連結業績、単体の資金繰り等を考慮した財務の健全化、将来の事業展開のための内部留保等を総合的に勘案し、決定してまいります。

### ▶ 配当の状況（一株当たり）



### voice 担当者の声



人事総務部  
総務課  
北 章吾

株主・投資家の皆様に、当社の取り組みをより正確に理解していただけるよう、公平かつ適切なタイミングで情報を開示できるよう努めてまいります。また、今後も様々な機会を通じ、コミュニケーションを図り、正当な評価と信頼が得られるよう、情報提供をおこなってまいります。



# 社員とともに

安全で安心して働くことのできる職場環境づくりを行うとともに、積極的に人材育成に取り組んでいます。

## 安全・衛生に関する方針

### ■ 安全・衛生に関する方針

当社で制定した、「全社安全衛生管理方針」に基づき、毎年目標を掲げ、重点実施事項を定めてその着実な実行を図るとともに一人一人の安全意識の高揚を推進しております。

また、労働災害未然防止のため「働きやすく安全を含めた生産性向上に寄与する職場環境形成の推進」に取り組んでいます。

### ■ 安全活動

労働災害防止と安全意識高揚のための活動として、労使による労使監査・全社安全衛生パトロール及び事業所毎のパトロールを実施しております。また、社内外安全衛生講習会への参加や3S（整理・整頓・清掃）の推進、職場懇談会の開催等を行い、安全活動の推進を行っております。2012年度は休業災害発生ゼロを達成しました。それに伴い休業度数率・休業強度率も共にゼロであり、引き続き労働災害の防止に努めてまいります。

▶ **度数率** 災害発生の頻度を示した指数。労働時間100万時間あたりの労働災害による死傷者数

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
度数率	0	0	1.54	0	1.72	0
全産業平均	1.83	1.75	1.62	1.61	1.62	1.59

※昨年の資料では、2011年度の数値が3.07でしたが、労災のカウント方法にミスがあり、訂正いたしました。

▶ **強度率** 災害の重篤度を示した指数。労働時間1,000時間あたりの休業災害のために失われた労働損失日数

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
強度率	0	0	0.01	0	0.01	0
全産業平均	0.11	0.10	0.09	0.09	0.11	0.10

※昨年の資料では、2011年度の数値が0.03でしたが、労災のカウント方法にミスがあり、訂正いたしました。

### ■ 健康増進活動

定期的に健康診断を実施し、社員の健康度の把握と健康作りへの啓蒙を行っております。

また、工場・開発部門においては別途必要な特殊健診を実施して社員の健康維持向上に努めております。

## 人材育成と人事制度

### ■ 人材育成に関する方針

「能力開発規程」を制定し、社員の能力開発に関する基本的事項について定め、チームワークを大切に顧客から高い信頼と評価を受け、柔軟性と創造性を持つ人材を育成することを宣言しています。

具体的活動としては、経営方針に基づいた上で、社員各自が向上意欲を持ち、自ら学ぼうとする姿勢を促進するために、OJT、OFF-JT（キャリアプラン別、職能別・階層別）、自己啓発（SD）援助等を行なって社員のキャリア形成・スキルアップをサポートし、人材育成に努めております。

### ■ 人事制度

社員各個人の業績を的確かつ公平に把握・評価し、その成果に応じた役割等級を付与する事によって、社員の能力成長と職務遂行意欲の向上、及び活性化を図ることを目的としております。

また、2006年10月より評価規程を改め、人事評価の原則を「役割に応じた客観的基盤に基づき、絶対評価を行なう」、「評価基準並びに評価規程を社員全員に公開する」、「評価結果を評価者を通じ、社員各自に通知する」とし、職能・役割に準じた業績評価・行動評価を行っております。

### ■ 自己申告制度

人材資産の分析把握を行い、社員の異動、教育訓練に展開するとともに、管理者と部下との面接による対話を通じ、部下に対する指導育成、配置に活用することを目的とし、「自己申告制度」を設けております。

### ■ 表彰関連制度

経営方針及び部門方針の遂行並びに日常の業務遂行に当たって、会社業績の向上に大きく寄与すると認められる個人あるいはグループに対して、これを表彰・公示して、会社としての謝意を表明すると共に広く社員の意欲向上を図るものとして、「特別功労表彰規程」を設けております。対象者には賞状及び賞金を授与しております。

## ■ 障害者雇用

2013年6月現在で5名の障害者の方が勤務しておりますが、今後も引き続き障害者雇用の促進に努めてまいります。

## ■ 定年年齢の延長

2013年4月より、就業規則を改正し、定年年齢を65歳に延長しました。

## ■ セクシュアルハラスメント防止への取り組み

就業規則の他、セクシュアルハラスメント防止規程を定めるとともに、人事部門及び各事業所担当課に相談窓口を設け、社員が安心して働ける環境を整えています。

## ■ 福利厚生制度

当社では仕事と育児・介護を両立出来るよう育児休業規程・介護休業規程を制定し、支援に取り組んでおります。

育児休業利用者は2012年度は1名となっています。今後も社員が、安心して働く事のできる環境づくりを支援していきます。

### ▶ 育児休業取得者数

(名)

	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
男性	0	1	0	0	0	0
女性	5	5	2	2	2	1

## ■ 次世代育成支援

当社は、「人を大切にする」企業理念に基づき、従来より育児と仕事の両立を支援する職場環境の整備に取り組んでまいりましたが、具体的な行動計画目標の達成が認められ、次世代育成支援認定事業主として、認定事業主マーク(愛称:くるみん)を2008年9月22日に取得しました。

また、次世代育成支援対策一般事業主行動計画として次の目標を設定いたしました。



**期間** 2012年11月28日から2015年3月31日まで

**目標1** 小学校就学前の子供を育てる社員がフレックス勤務制度を利用できる措置の実施

**目標2** インターンシップ等の就業体験機会の提供の拡充

**目標3** 子供が保護者である労働者の働いているところを実際に見ることができる「子供参観日」の定着化

## ■ 労働組合の状況

セメダインの労働組合はユニオンショップ制をとっております。また、労使関係は良好であり、快適な労働環境づくりや労働条件に関する協議を行っております。

### voice 担当者の声



人事総務部  
人事課  
大谷 洋介

セメダインは「人を大切にし、より良い製品をより多くの人々に提供することにより社会に貢献する」を基本理念としております。

人事課では、社員の採用から退職まで、給与や人事考課、退職金の支払等の諸手続きや制度の企画の立案・運用を担当しています。また、地域貢献・社会貢献活動として、東京青年会議所が主催する「しながわ職場歩き」「しながわ寺子屋」への参加やインターンシップの受け入れなど実施しています。社内では「子供参観日」を設け、社員の子供たちが保護者と一緒に出勤し、一緒に仕事を体験してもらい、家族の絆を深めるといった取り組みも行っております。

より良い製品を提供することで社会に貢献するとともに、人と人との交流を通じて、環境だけでなく社会にも優しいセメダインというブランドイメージの実現に今後も邁進していきます。

# 地域社会とともに

私たちセメダインでは、事業所が所在する地域への社会貢献と積極的な交流に努めています。

## 地域社会貢献活動

### ■ 地域社会貢献活動

当社は、各種地域社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。2012年度の主な活動をご紹介します。

東京青年会議所が主催する2つのプロジェクト（「東京寺子屋」[しながわ職場歩き]）や、品川区が主催する「品川区ものづくり技術体験ツアー」に参画し、講師の派遣や生徒の受け入れを行い、品川区の小学生や中学生を中心に、「はたらくことに対する情熱」、「ものづくりの楽しさ」を子供達に伝える活動を行っています。

また、「青少年のための科学の祭典古河大会」に出展し、茨城県古河市の子供たちに「接着剤の不思議さ」を教え、あわせて工作教室を実施しています。

本年（2013年）3月に『しながわCSR推進協議会』に入会いたしました。『しながわCSR推進協議会』は、品川区と区民である企業との協働で「私たちのまち」品川区をつくるという理念の基に企業の社会貢献活動を推進することを目的としています。区、参加企業との意見交換・情報交換の他、当社として区内の小中学校への講師派遣による出張授業等の活動を行っています。

三重工場では地域社会貢献活動として、毎年3回工場周辺道路の清掃を年間計画に取入れ実施しています（4月・7月・10月）。また、万一の有事の際、液体の製品や材料が敷地外に流出しない様、吸油マットや土嚢等を設置しており、社員は年に1回流出防止訓練を実施し、納入業者様には異常時の手順を看板にて表示しています。その他、地球温暖化や自然破壊を防止すべく、森林づくりの応援として「緑の募金」に毎年協力しています。



三重工場周辺道路の清掃活動

### 職場見学の受け入れ

2012年8月2日、3日、6日の3日間にわたって、茨城工場に隣接している総和中学校の1年生全員（194名）が職場見学に訪れました。

実際の職場を見学することにより、将来の職業選択の参考にすること、また、職業に誇りと責任を持って働く人々に直接触れることにより、職業や進路に関わる啓発的体験を得ることを目的とした学校教育の一環ということで、趣旨に協賛し、受け入れさせていただきました。

見学内容としては、茨城工場の概要と接着剤の歴史について説明を行った後、いくつかのグループに分かれて、ゴム系接着剤と建築用シーリング材の工程を中心に製造現場を見学いただきました。

後日、生徒さん一人一人の感想がつけられたお礼状をいただきました。少しでもモノづくりというものに興味を持っていただくことができたのではないかと喜ばしく思います。今後も地域貢献の一環として続けていきたいと考えております。



総和中学校生徒による職場見学



## 日本初の合成接着剤「セメダインC」が 国立科学博物館の重要科学技術史資料に登録

2013年(平成25年)9月3日、独立行政法人国立科学博物館(東京都台東区)が定める重要科学技術史資料(愛称: 未来技術遺産)に、当社の日本初の合成接着剤である「セメダインC」が登録され、同年9月10日、国立科学博物館において、「重要科学技術史資料登録証」の授与式が行われました。

重要科学技術史資料は、「科学技術の発達上重要な成果を示し、次世代に継承していく上で重要な意義を持つもの」や「国民生活、経済、社会、文化の在り方に顕著な影響を与えたもの」の2点を選定基準として登録される文化財です。その優れた性能と、効果的な宣伝、教育支援活動等により全国的に広く普及し、その後今日でも広く使用されている点を評価され、この度の登録にいたりました。

2013年(平成25年)11月19日で創業90周年を迎えた当社の歴史においても、「セメダインC」の誕生は非常に大きな意味を持っています。

セメダインの歴史は、創業者である今村善次郎が当時の日

本の市場を席巻していた外国産の接着剤を駆逐すべく、接着剤の国産化に乗り出した1919年(大正8年)から始まりました。

今村善次郎は1923年(大正12年)、国産接着剤第1号となる「セメダインA」を発売。この技術をもとに更に研究を重ね、1938年(昭和13年)に、ニトロセルロースを主成分とした合成接着剤「セメダインC」を完成させました。耐水性、耐熱性に優れ、さらに無色透明で仕上がりが美しく、外国製の接着剤を超えたその画期的な性能と、宣伝カーなどを使用した宣伝活動、当時の学童の間で巻き起こった模型飛行機ブームにより、瞬刻間に爆発的人気の商品となった「セメダインC」は、その後の日本の接着産業をけん引していきます。

そして21世紀、セメダインが新たに開発した“弾性接着剤”の代表的な製品である「セメダインスーパーX」が世界中で活躍しています。「セメダインC」を原点にしたセメダインの接着技術は日々進化し続け、工作用にとどまらず、数多くのセメダインがスマートフォンや電気自動車などの産業用接着剤として最先端技術を陰で支えています。日本の接着産業の始祖である当社は、今後も日本の産業と科学技術の発展に貢献すべく、引き続き積極的な接着剤の研究開発に取り組んでまいります。

## 「つくる」「つける」体験を提供する工作教室

当社では、次世代を担う子どもたちに、つけることの楽しさと、つくことの不思議を知る機会を提供し、もの作りへの興味・関心を育成するきっかけ作りを推進することを目的に、小学生を対象にした工作教室を長年にわたって行っています。

昨年度は、約1,000名の小学生・保護者に対して工作教室を実施し、実際に接着剤を使って組み立て・飾りつけをした、世界に一つだけの貯金箱を作るワークショップを提供しました。また、工作教室の

中では、子供たちの接着剤に対する興味・理解が更に深まるよう、接着剤のくつつき仕組みや歴史に関する講義を、実験を交えて行っており、体験と座学の両面からのアプローチにより、子供たちがくつつけることへの興味を持てるよう工夫をしています。こうした、接着剤で「くつつけて作る」ことへの更なる興味関心の輪を広げ、今後も積極的に活動を続けてまいります。



工作教室

### voice 担当者の声



営業統括部  
管理グループ  
篠原 泉

工作教室で教える時は、接着剤を正しく安全に使ってもらうこと、接着剤を使った工作を楽しんでもらうことを心がけています。始めバラバラのパーツでしかない木の板やタイルを、接着剤によって組み合わせ、一つの作品を作っていく過程で、子供たちの表情はとてもいきいきしたものになり、また、子供たちの自由な発想に私たちが驚かされることも、幾度となくあります。子どもたちがモノづくりに触れる機会が減少しているなかで、自分の手で接着剤を塗り、モノを作っていく経験が、将来的に子どもたちがモノづくりに興味を持つ原点となるよう、今後も力を入れて活動してまいります。

# 環境への取り組み

私たちセメダインは、「住む人にやさしい、使う人にやさしい、環境にやさしい」製品づくりを使命として環境活動に取り組んでいます。

## 環境方針

2003年に、全社の環境活動の基本となる環境方針を制定しています。

## 基本方針

セメダイン株式会社は、全社員が環境の重要性和資源の有限性を認識し、その保全・保護・改善に不断の努力を行うとともに、環境を視野に入れた企業発展を目指し、社会的責務と事業活動を両立した環境保全企業を指向する。

## 行動指針

セメダイン株式会社は、「接着剤・シーリング材ならびにこれらの関連製品の開発・生産・販売」の事業活動において、その活動を地球環境の保護に調和させ、かつ持続的発展の可能な環境保全型企業実現のため、全社員が遵守すべき指針を以下に示す。

- 1 製品の開発から廃棄に至るすべての事業活動において、環境・安全・健康への影響に配慮することを経営の重点課題とし、全社挙げてこれに取り組む。
- 2 環境保護に対する社内体制の整備、環境負荷低減目標の設定、環境保護活動の推進に積極的に取り組むとともに、これらの活動を通じて環境へのさらなる意識向上を図る。
- 3 製品の全サイクルを通じ、環境保護のための省エネルギー・省資源・リサイクル・廃棄物削減などの環境負荷低減に積極的に取り組み、その継続的改善に努める。
- 4 国・地方自治体・業界などが定める環境関連規制をよく理解するとともに、必要に応じて自主基準を設定し、これらの規制・基準を遵守する。
- 5 製品の輸出や海外での事業活動に際しては、現地の環境保護・法令等に配慮し、必要な対策の実施に努める。

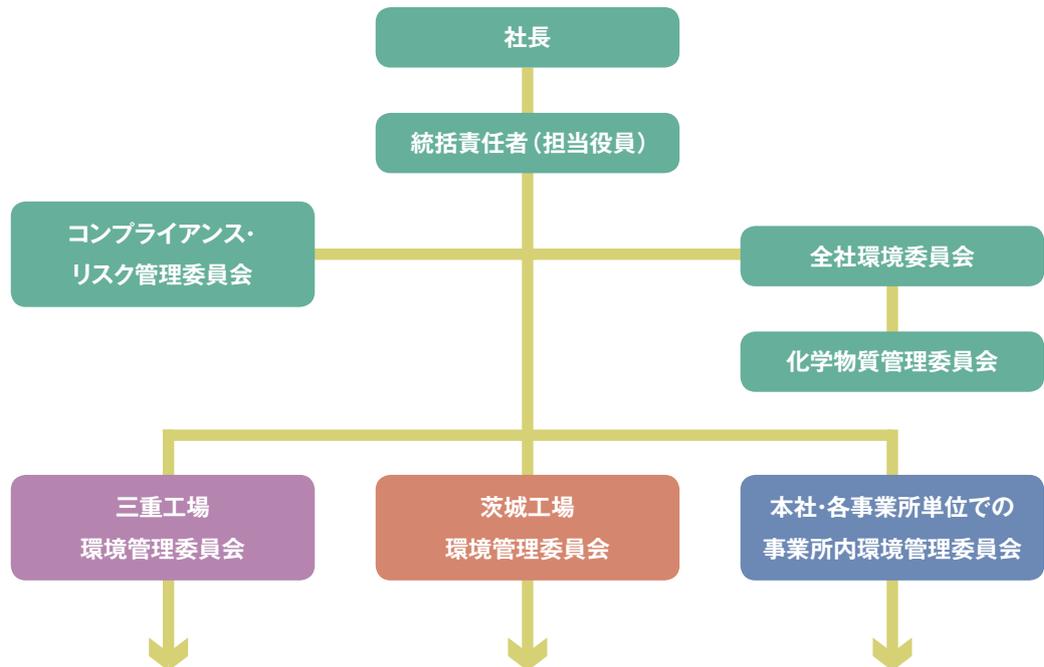
## 環境マネジメントプログラム

各事業所の環境管理活動の指針となる全社環境マネジメントプログラムを策定し、各事業所の活動の基準としています。

## 全社環境マネジメントプログラム

1	資源・エネルギーの使用量把握と削減 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 電力・重油の使用量を削減する。</li> </ul>
2	廃棄物排出量の把握と削減 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 廃棄物を削減する。</li> </ul>
3	環境保全 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 大気汚染の原因となる VOC (揮発性有機化合物) 排出量を削減する。</li> <li>● 環境法令を遵守する。</li> <li>● 建物・設備の導入・更新時に環境に配慮する。</li> <li>● グリーン購入を推進する。</li> </ul>
4	化学物質使用量の把握と削減 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 有害化学物質の使用量を削減する。</li> <li>● 使用する化学物質の環境影響評価を行う。</li> <li>● 包装材料使用量を把握する。</li> </ul>
5	環境配慮製品の開発 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境配慮製品の開発、販売を推進する。</li> </ul>
6	環境情報の公開と外部コミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境活動内容を公開する。</li> <li>● 企業活動を通じて地域・社会へ貢献する。</li> </ul>

## 推進体制



	三重事業所	茨城事業所	本社・各事業所
対象の組織	三重工場	茨城工場 開発部・物流部・ 品質保証部・生産技術部	本社事業所 大阪事業所 名古屋事業所
活動の主体	ISO14001	ISO14001	事業所毎の環境管理活動
外部認証状況	JCQA-E-0176 初回：2000.09.11 更新：2012.09.11	JCQA-E-0366 初回：2002.03.25 更新：2011.03.25	
		ソニー(株)グリーンパートナー 環境品質認定取得 初回：2003.11.18 更新：2012.07.30  パイオニア(株) 環境負荷物質(EHS)基準適合認定 初回：2005.09.15	



三重ISO登録書



三重ISO付属書



茨城ISO認証書



茨城ISO付属書

# 環境マネジメントの定量的評価

## 全社環境マネジメントプログラムの結果

	2010年度 ('10年4月~'11年3月)	2011年度 ('11年4月~'12年3月)	2012年度 ('12年4月~'13年3月)	目 標
CO <sub>2</sub> 排出量(トン)	5,563	5,427	5,450	—
	5,445	5,302	5,367	
電力使用量(万kwh)	492	472	457	工場部門:生産量原単位比で1%削減 事務所部門:1%削減
A重油購入量(KL)	1,228	1,228	1,152	生産量原単位1%削減
VOC排出量(トン)	12.5	11.0	11.1	—
ガソリン購入量(KL)	52	58	52	—
PPC用紙購入量(万枚)	288	275	274	—
水使用量(千m <sup>3</sup> )	79	64	68	—
一般廃棄物排出量(トン)	108	116	44	年間100t以下
産業廃棄物排出量(トン)	781	744	761	年間生産量の5%以内
有害廃棄物排出量(トン)	139	46	31	年間生産量の0.5%以内
環境配慮製品の開発(件)	28	56	33	—
環境配慮製品の販売量(百万円) 総売上高に対する比率(%)	6,484 (32.7)	6,529 (32.0)	6,585 (32.3)	総売上金額の30%以上を維持する
新規使用材料の 環境調達基準適合確認(件)	40	35	37	—
環境関連の教育・訓練回数(件)	95	77	59	—
環境事故発生回数(件)	10	2	5	—
第三者監査・第三者監査(件)	6	2	4	—

- 改善
- △ 改善されているが不十分
- × 改善できず
- 評価なし

特記のない限り、対象事業者は、本社・大阪事業所・名古屋事業所・茨城事業所・三重事業所です。

実 績	自己評価
<p>上段は、電力、A重油、ガソリンのエネルギーから算出、下段は温対法による報告値です。            エネルギー起源のCO<sub>2</sub>排出量は23トン(0.4%)増加しました。            また、温対法により行政へ報告するCO<sub>2</sub>排出量も65トン(1.2%)の増加となりました。            電力会社の換算係数の増加が影響しています。            なお、省エネ法によるエネルギー使用量の行政への報告値は、前年度の2,454KLから2,335KL(原油換算値)に減少しました。</p>	×
<p>節電への取り組み等により、絶対量は前年度よりも減少しました。            一方、工場全体の生産量あたりの原単位は工場の生産品目の変化の影響により2.3%の増加、事務所部門では2.0%の増加となり、目標を達成することが出来ませんでした。</p>	×
<p>購入量は前年度から減少しましたが、生産品目の変化により、生産量あたりの原単位では前年と変わらない結果となり、目標である1%削減を達成できませんでした。</p>	×
<p>日本接着剤工業会の重点削減対象9種類の使用量(購入量)に、大気への排出値として1.05%(工業会の設定した基準値)を乗じた値です。            溶剤使用量が前年と大きく変化なく、ほぼ前年並みとなりました。</p>	△
<p>営業活動に影響を受ける項目です。前年に比較して6KLの減少となりました。</p>	—
<p>事務業務全般の省資源の指標となりますが、前年からわずかに減少しました。</p>	○
<p>工場で使用する水道水、工業用水の量は、前年よりやや増加しました。</p>	—
<p>本社の移転が完了し、廃棄物の管理を厳密に実施した結果、大幅な削減を達成しました。</p>	○
<p>工場から排出される、製品の切り替え等で発生する産業廃棄物です。            生産量に対する原単位は4.3%で、前年度の4.0%から増加していますが、目標である5%以内は達成しました。</p>	○
<p>工場から排出される特別管理産業廃棄物です。            生産量に対する原単位は0.17%で、前年度の0.25%から改善しています。            目標である0.5%以内も達成しました。</p>	○
<p>色、規格等の重複を除いた、開発部で新規に設計、発売された製品の数です。</p>	○
<p>当社基準のCCSマーク品、JIS、JAIAのF☆☆☆☆品、JAIAの4VOC基準適合品の販売金額です。            売上高(20,354百万円)に対する比率は約32%であり、目標である30%以上を維持しています。</p>	○
<p>グリーン調達を進める中で、新しく採用する原材料の自社調達基準への適合を確認した件数です。            なお、実施率は100%です。</p>	○
<p>主に工場部門での環境汚染防止等の訓練の回数です。</p>	○
<p>工場内での異常発生回数です。なお、法令に抵触するような事故の発生はありません。</p>	○
<p>特に是正を必要とする指摘はありませんでした。</p>	○

# 環境会計

## 環境保全コスト

(単位：千円)

分類	2011年度		2012年度		主な取り組み内容	
	投資額	費用額	投資額	費用額		
事業エリア内コスト	公害防止コスト	1,800	7,141	5,474	7,242	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 集塵器設置</li> <li>● ボイラー・空調機の更新</li> <li>● 排水槽・ボイラー・浄化槽の点検</li> <li>● 霞ヶ浦工業用水の利用</li> </ul>
	地球環境保全コスト	9,000	2,720	5,053	1,448	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 空調機の保全</li> <li>● 恒温室の保守</li> </ul>
	資源循環コスト	0	44,544	0	38,494	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 廃棄物処理委託</li> </ul>
	小計	10,800	54,405	10,526	47,184	
上・下流コスト	0	3,297	0	2,752	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境配慮品用の製造設備設置</li> <li>● 容器包装リサイクル委託</li> <li>● 製品の再商品化(再加工)</li> <li>● グリーン購入</li> </ul>	
管理活動コスト	0	5,010	0	6,588	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境管理活動(ISO関連含む)</li> <li>● 環境教育</li> <li>● 環境測定</li> <li>● 有害物質分析</li> <li>● 事業所緑化・美化・景観保持</li> </ul>	
研究開発コスト	990	11,244	0	8,498	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境配慮新製品の開発費 (分析用備品・備品消耗品の購入)</li> </ul>	
社会活動コスト	0	92	0	23	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境保全活動</li> </ul>	
合計	11,790	74,048	10,527	65,045		

集計範囲：茨城事業所、三重事業所、本社事業所

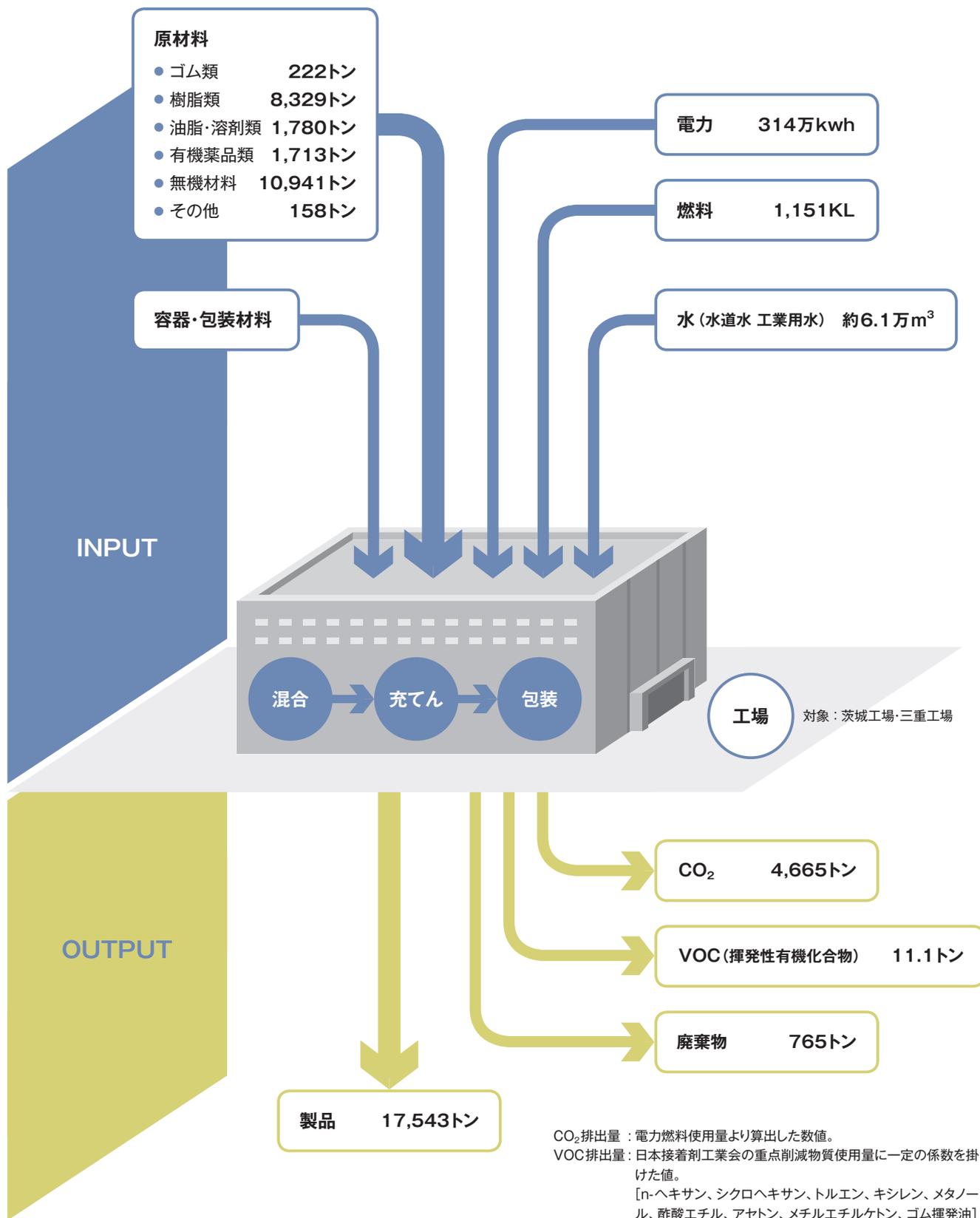
## 環境保全効果

(単位：千円)

分類	主な内容	金額	
		2011年度	2012年度
省エネによる削減	節電、重油使用量の削減	2,164	▲236
廃棄物関連	有価物(金属くず等)の売却	7,475	7,333
環境配慮品の市場展開	環境配慮品の販売粗利益	1,240,926	1,292,627
合計		1,250,565	1,299,724

# 事業活動と環境負荷

## 化学物質のインプットとアウトプット



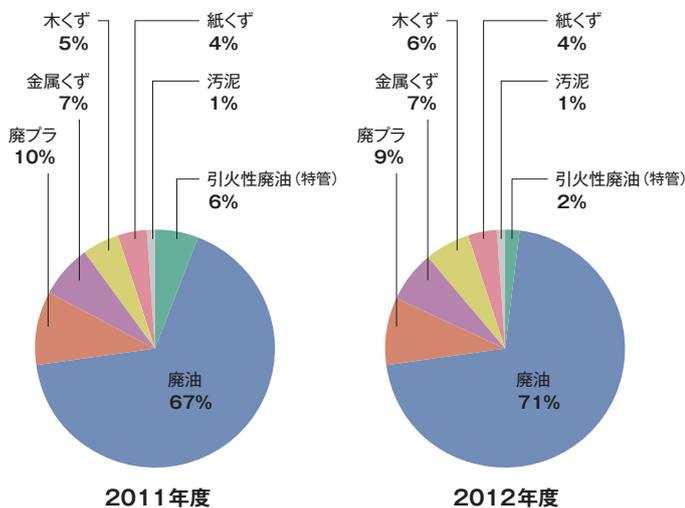
# エネルギー使用量・廃棄物の管理

## エネルギー使用量・廃棄物実績

廃棄物の排出量は、前年に引き続き総量では減少となりました。  
茨城工場については、溶剤系接着剤の生産量減少に伴う引火性廃油（特別管理産業廃棄物）の減少が顕著に見られます。

一方、無溶剤型接着剤の製造工程で発生する廃油、廃プラスチックは、茨城工場では減少、三重工場では増加する傾向も見られます。外注を含め、生産品目が変動していることによるものと推定されます。

### ▶ 2011、2012年度の廃棄物の量と内容（茨城、三重の両工場集計）



### ▶ エネルギー使用量実績

エネルギー種類	全社		茨城工場		三重工場	
	2011年度	2012年度	2011年度	2012年度	2011年度	2012年度
電力(千kwh)	3,287	3,139	1,607	1,504	1,680	1,635
A重油(KL)	1,228	1,151	1,201	1,117	27	34
水(m³)	56,776	61,161	53,018	56,608	3,758	4,553
LPG(m³)	2,635	2,269	2,527	2,159	108	110

### ▶ 廃棄物実績

(単位:トン)

物質名	全社		茨城工場		三重工場	
	2011年度	2012年度	2011年度	2012年度	2011年度	2012年度
引火性廃油(特管)	45.9	11.8	28.9	9.3	17.0	2.5
廃油	513.3	521.3	393.5	379.3	119.8	142.0
廃プラ	76.3	68.9	54.3	50.0	22.0	18.9
金属くず	51.2	49.3	28.8	25.2	22.4	24.1
木くず	34.5	41.7	23.5	27.4	11.0	14.3
紙くず	29.3	31.5	-	-	29.3	31.5
汚泥	6.1	10.6	6.1	10.6	-	-
合計	756.5	735.1	535.0	501.8	221.5	233.3
再資源化量	197.5	184.8	150.9	130.2	46.6	54.6

## 環境負荷の低減

化学物質の取扱い及びエネルギー使用において、環境負荷の低減の実現を進めています。

### ▶ 化学物質の適正管理 PRTR対象物質実績(2012年度)

(単位:kg)

(No.)	物質名	全社			茨城工場			三重工場		
		排出量	移動量	計	排出量	移動量	計	排出量	移動量	計
1	亜鉛の水溶性化合物	0	14	14	0	14	14	-	-	-
134	酢酸ビニル	0	12	12	0	12	12	-	-	-
239	有機スズ化合物	0	185	185	0	120	120	0	65	65
265	テトラヒドロメチル無水フタル酸	0	49	49	0	49	49	-	-	-
300	トルエン	110	110	220	110	110	220	-	-	-
349	フェノール	0	280	280	0	280	280	-	-	-
392	ノルマル-ヘキサン	0	130	130	0	130	130	-	-	-
405	ほう素化合物	0	184	184	0	160	160	0	24	24
411	ホルムアルデヒド	0	10	10	0	10	10	-	-	-
	合計	110	974	1,084	110	885	995	0	89	89

PRTRとは：環境汚染の防止を目的に、各事業者が化学物質の管理に自主的に取り組むべき法律としてPRTR法（特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律1999年7月公布）が制定されました。この法律の規制のひとつとして、指定された取り扱いの化学物質の環境への排出（大気や土壌への排出）や移動量（廃棄された物）を国へ届け出ることがあり、これにより事業者は自主的に削減に取り組むことが要請されています。

# 環境への配慮

## 製品における環境配慮

化学物質に関連する法規制、お客様の環境調達（グリーン調達）方針や、その他の要請を考慮した自主的な使用化学物質の制限等を包含したものと、グリーン調達のガイドラインを策定し、製品開発の際の重要配慮事項とするとともに、既存製品の見直しも順次進めております。

### ■ 建築用途製品での環境対応

セメダインにおける建築用接着剤、シーリング材の対応概要は下記の通りとなります。

法規制等	対象物質		基準	製品への表示
毒劇物取締法	法、指定令の劇物	メタノール、トルエン、キシレン、ホルムアルデヒド等	意図的な使用の禁止（社内基準）	CCSマーク（自主表示）
労働安全衛生法	製造禁止物質	石綿（アスベスト）		
厚労省指針	室内空気濃度指針値設定物質	ホルムアルデヒド等 14物質		
		トルエン、キシレン、スチレン、エチルベンゼン	日本接着剤工業会基準	4VOC基準適合（JAIA）
建築基準法	放散量（速度）規制物質	ホルムアルデヒド	JIS規格（建築用・木材用接着剤）	F☆☆☆☆（JIS）
			日本接着剤工業会基準	F☆☆☆☆（JAIA）
			日本シーリング材工業会基準	F☆☆☆☆（JSIA）

## 環境に配慮した研究開発システム

セメダイン製品の生産から、顧客での使用、廃棄にいたるライフサイクルにおいて、安全・環境面の安全を確保するために、設計の各段階でチェックを行っています。

### ■ 化学物質規制の情報共有と教育

設計部門での化学物質規制の集合教育および化学物質管理委員会等を通して他部門との情報交換を行い、意識づけと必要情報の周知・共有を図っております。

### ■ 化学物資の法規制・顧客規制への対応

開発提案書は営業部門から起案されますが、要求性能として化学物質規制情報を調査の上記入することが求められています。当社製品の市場は幅広く、直接一般消費者が使用するものから産業用途までいろいろなところで役立っています。最近では、海外輸出も増加しており、各国・地域の化学物質に関する規制、化審法（化学物質の審査及び製造の規制に関する法律）への対応が必須です。設計部門ではこれらの要求を品質展開表に盛り込み、それ以降の開発、改良に反映させています。

### ■ 原材料メーカーとのコミュニケーション

原材料メーカーとのコミュニケーションは、材料紹介時に当社グリーン調達基準を説明することからスタートします。材料選定時には原材料の含有成分調査票の提出をしていただくとともに、必要に応じ、当社でも分析による確認を行っています。また、材料自体の製法などの把握に努めることで、不純物や分解物の予測を行います。これらのコミュニケーションを通して、原材料メーカーには当社の化学物質への取り組み姿勢を理解頂き、協力をお願いしています。

### ■ 分析技術の向上

有害成分の分析について、外部委託のほか、社内分析技術の向上を図っています。ここ数年継続して強化しているVOC分析について、自動車、電機等の市場で従来と異なる測定方法も求められており、信頼される測定対応に努めています。

# 第三者意見

麗澤大学経済学部・大学院経済研究科教授  
麗澤大学企業倫理研究センター副センター長  
博士(経営学)

## 倍 和博 氏

セメダイン株式会社(以下、同社)は、2003年に「環境報告書」を刊行されて以降、今年度から「2013年社会・環境報告書」としてCSR活動に関わる内容の拡充に取り組まれています。CSR活動の定量化を試みるCSR会計と持続企業経営を促進する立場から、以下に第三者意見を申し述べます。

### ■ 高く評価できる点

創業90周年の歴史を持つ同社は、化学物質分野における持続企業としての地位を築かれています。「人を大切に、より良い製品をより多くの皆様に提供することによって社会に貢献する」という経営理念に基づき、国内はもとより海外への展開や環境配慮活動などを通して、企業経営にコミットしている点を評価します。今年度はこれまでの「環境」を中心とした活動内容から、より広範な「ステークホルダー」を意識した内容へと報告書を拡充しています。こうした取り組みは「人」を大切にするというトップと同社の強い意思の表れであり、ステークホルダーとの共生に向けた今後の展開が大いに期待できる報告内容となっています。

### ■ 今後の改善に期待する点

社会・環境に関わるCSR活動の実態を明らかにするには、CSR活動計画のPDCAサイクルを経営戦略とより密接に関連づける必要があります。また、現在、人事総務部と品質保証部が主体となって組織連携を図られていますが、組織横断的なガバナンスに向けて経営戦略本部や営業統括本部との連携を模索するなど、CSRリスクの把握とモニタリングができる仕組みづくりを構築していただければと思います。化学物質分野のリーディングカンパニーとして、また持続企業として社会に貢献する姿をステークホルダーに示していただけるよう益々の発展を祈念しています。



2001年麗澤大学に奉職、現在に至る。日本経営会計学会理事長、ICBM(International Conference on Business Management) Vice-President、経営関連学会評議会評議員他。2008年豪ボンド大学経営学部客員教授。著書に『CSR会計への展望』森山書店、『持続企業の条件:環境変化に打ち克つ5原則』麗澤大学出版会など多数。

# 第三者意見を受けて

品質保証部長

## 阿部 祐輔

ご意見を頂き、まことにありがとうございます。

ご指摘の点については、真摯に受け止め、取り組んでいく所存です。

化学物質を取り扱い、当社の製品、および当社の製品が使用されたさまざまな製品を一般消費者の皆様のお手元に届けるメーカーとして、環境への配慮、特に有害物質の管理は必須の責務と認識しております。「人」を大切にするという理念との結びつきがより見える形での目標設定を進めます。また、スパイラルアップのために、目標・計画の定期的な見直しを心がけます。

また、CSRへの取り組みに関しては、社長、役員、全ての従業員の毎日の業務がCSR活動につながっていることを、わかりやすくお伝えできるように報告内容の充実を図ってまいります。



# 会社概要

## セメダイン株式会社の概要

### 社名

セメダイン株式会社

### 本社

〒141-8620 東京都品川区大崎1-11-2

ゲートシティ大崎イーストタワー

TEL 03-6421-7411

FAX 03-6421-7415

URL <http://www.cemedine.co.jp>

### 設立

1948年4月22日(創業1923年11月)

### 代表者

代表取締役社長 荒井 進

### 資本金

30億5,037万5千円

### 事業内容:

1. 接着剤、シーリング材、粘着テープ、塗料、コーティング剤、その他(潤滑油、剥離剤)及びその加工品の製造販売
2. 家庭用品、事務用品類の製造販売
3. 接着剤及びシーリング材等の適用機材・器具の製造販売
4. 毒物および劇物の製造販売
5. 接着及び防水等に関する施工及び請負
6. 上記に関係ある商品の輸出及び輸入
7. 上記に附帯する一切の業務

### 売上高

単独203億円 連結237億円(2013年3月期)

### 事業所

工場2カ所、事業所3カ所、営業所5カ所、物流センター2カ所、開発センター

### 従業員数

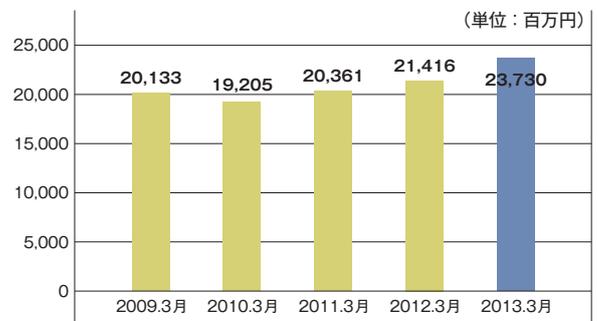
246名(単独)(2013年3月末時点)

### 国内の関係会社

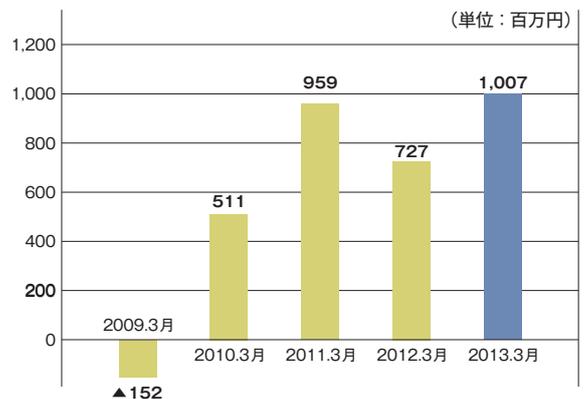
セメダインオートモーティブ株式会社、セメダイン販売株式会社、セメダイン化工株式会社、セメダインケミカル株式会社

## 売上高・従業員数の推移

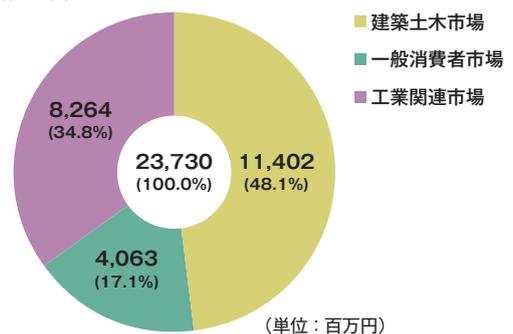
### ▶ 売上高の推移(連結)



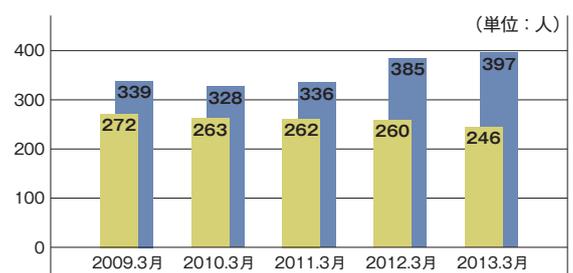
### ▶ 経常利益の推移(連結)



### ▶ 市場別売上高(連結)



### ▶ 従業員数の推移



# セメダイン株式会社

本社事業所 〒141-8620  
東京都品川区大崎1-11-2 ゲートシティ大崎イーストタワー  
☎(03)6421-7411

大阪事業所 〒542-0081  
大阪市中央区南船場1-16-10 大阪岡本ビル  
☎(06)4964-5330

名古屋事業所 〒464-0026  
名古屋市千種区井上町34  
☎(052)781-3166

札幌営業所 ☎(011)271-4929

北関東営業所 ☎(0280)92-9639

福岡営業所 ☎(092)273-2070

仙台営業所 ☎(022)287-3611

広島営業所 ☎(082)249-0941

<http://www.cemedine.co.jp/>

商品に関するお問い合わせ先:接着技術相談センター  
☎0120-58-4929 (土曜日・休日を除く10:00~17:00)



この社会・環境報告書には、有害なVOC(揮発性有機化合物)成分が含まれていない植物油インキ、印刷時に濃し水を使用せず同じくVOCを大幅に低減する水なし印刷が採用されております。